平成 25年 12月 発 行

パートナーシップおかや

No.15

岡谷市男女共同参画推進市民の会

着実に進めよう「ワーク・ライフ・バランス」

岡谷市男女共同参画推進市民の会　三 澤　勲

「日本の合計特殊出生率、過去最低の1. 26を記録(2005年)」・・・これには大きな衝撃を受けたものでした。これを機に、政府は急速に進む少子化対策として、ワーク・ライフ・バランス(仕事とそれ以外の生活の両立) 支援を推進してきました。従業員の子育て支援計画が企業に義務づけられ、各企業は「両立支援」への取組みを急ピッチで進めることになりました。法定以上の育児休業や時短勤務制度を導入する企業も増え、今では2〜3年間の育休や、子どもが小学3年生になるまで、時短勤務が選択できる制度を導入した企業も出ています。この結果、女性の育児休業取得率(厚労省調査)は91.6%(2011年)となり、出産離職する女性を大幅に減らすことが出来ました。

ところが、いま企業は新たな問題に直面していると聞きます。女性社員が、この両立支援制度を活用し、長期間の育休・時短勤務を続けるため、女性のキャリアアップの妨げになっている、さらには、女性を「より高い位置づけにする」ことが難しくなってきている、というのです。

ところで、女性は好き好んで長期の産休や育休をとっているのでしょうか。出産後の子育ての負荷が女性に重く圧し掛かり、不本意ながら長期間の育休や時短勤務を続けざるを得ないというのが実情なのではないでしょうか。ノルウェー、スウェーデンなど北欧諸国は、出産休暇と育児休暇は「セットで制度化」されており、休暇期間も日本より長くなっていると聞きます。これにより、母親のみが取得できる休暇期間を、産前・産後の「母体保護期間」に限定して、その後は両親の内のいずれかに休暇の取得を可能とさせ、父親の育児への参加機会を広げているとのことです。

私たちは、これら北欧諸国の事例・制度等も参考にしながら「社会全体で、女性がきちんと仕事が出来る環境整備に努めていく必要がある。」と痛感しています。

パートナーシップ講座「女性区会議員懇談会」を開催

女性区会議員さん(21名)にお集まりいただき「懇談会」(パートナーシップ講座)を開催しました。

開催日時・会場：11月26日(火)午後7時〜8時30分 ・ イルフプラザ(カルチャーセンター研修室)

懇談会開催の趣旨： ①特段のテーマは設けず、女性区会議員の皆さんが、日頃思っていること、感じていることを、明るい雰囲気の中で語り合い、意見交換していただく。 ②区会議員として活動していく中で、疑問に思っていること、感じていること等を忌憚なく語っていただき、市政(区政)に対する要望等も出していただく。 ③「男女共同参画」ということについて感じておられることの一端でも披露していただく。

活発な意見・情報交換の場になりました

現在、岡谷市(全21区)には、42名の女性区会議員がいますが、半数の21名の皆さまの出席を頂きました。小口・宮坂両副会長の司会で進められた懇談会は、終始、和やかな雰囲気に包まれ、「区会議員の選任方法」、「区の中での役割」「心して取組んでいること」、「成果が得られた具体例の紹介」など、活発な意見交換・情報交換の場となりました。また、ベテランの議員さんから、「区や町内の事業や行事を企画・立案する際、女性の意見や考え方も採り入れられて検討されるようになってきている。この傾向を確かなものとするためにも、今後、女性議員を増やしていきたい。」との発言もありました。

私たち「市民の会」は、懇談会を傍聴しましたが、女性議員の皆さんから、「区や地域の中では、女性が活躍されており、よりよい成果を上げている具体例」を教えていただくことが出来ました。

特集 ☆かがやく☆ OKAYAの女性

何事にも挑戦 中高年の方々と共に働く

(小井川区) 宮坂 安壽恵さん

女性は、「口紅ひとつにしても、自分で働いて得た収入で買うこと考えていきましょう」「健康で働けるうちは、自分の力で得たもので生活することを続けていきます」と、自らを諭すように力説される宮坂安壽恵さん。幾つになっても、躊躇することなく挑戦し続ける彼女にエールを送ります。

☆ 自立した女(ひと)でありたい。・・社会的に認められる「資格」を得よう。

結婚後、主婦を続けた宮坂さんですが、事情があって離婚、娘さんと二人の生活を始めることになりました。生活を立てるために、自動車運転２種免許を取得、タクシー運転手を５年間経験されました。タクシー運転の仕事は、当時としては、男女収入の差がない「唯一の職業」であったからと述懐されています。その後、職業安定所の薦めもあり、簿記の資格(2級、3級)を取得してある会社(製造業)に就職。そこで「生産管理」の技術と知識を身につけたのでした。

☆ 常に問題意識をもち続け挑戦し、自らを向上させ、仕事の「量・質」も向上させよう。

宮坂さんは、会社勤めを続けるうちに、それまでに得た「資格・知識・経験」を生かして、自分で独立して仕事をしてみたいという気持ちを膨らませていきます。会社勤めに区切りをつけ、精密(部品加工・組立て)の仕事を始めました。この自営の仕事を始めて、仕事に対する責任、得られる収入の多寡、時間の管理(ワーク・ライフ・バランス)、等々、常に問題意識をもちながら、仕事の幅を広げていったのでした。自分独りで出来る仕事量に限界を感じると、周りにいる主婦、手の空いていそうな人に声を掛け、仕事を分かち合い、その「量と質」を確保する努力をを続けてきたのです。只今では、宮坂さんと同年代の仕事のエキスパート(3人)と年配の方々(7、8人)が内職方式で共働する「安工業」を立ち上げ、堅実な経営をされています。

「挑戦」の2文字を忘れない

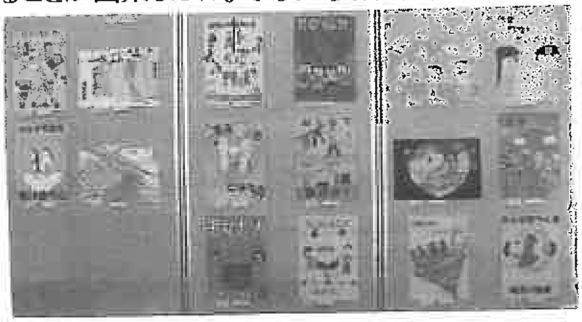
☆ 経営者の顔も備えた宮坂さん・・きりりと語ってくれました。

① 「年間を通じて、仕事量を確保し、ミスのない製品に仕上げることに腐心しています。そのためには、年配の方々の良いところ(根気がある、単純作業も厭わない、納期を守ってくれる)を大切にしつつ、その出来栄えのチェックと最終工程をエキスパートに担当してもらうことを基本に安工業を運営しています。納期と品質はしっかりを守れています。」

② 「安工業で働く仲間の中には障害をもった方もおられます。障害を抱えていても、すごく手先が器用で、正確な仕事をしてくれます。持てる力を最大限発揮して挑戦している姿には頭が下がります。そんなこともあり、ホームヘルパー２級の資格を取りました。」

小・中学生「男女共同参画啓発ポスターコンクール」今年もたくさんの作品が！

本年度も、岡谷市(教育委員会)より、特段のご協力いただき、「小・中学生ポスターコンクール」を実施することが出来ました。学校が夏休み中の7月～8月、児童・生徒の皆さんは、夏休みの宿題の一部として力作を完成、各学校に提出(応募)してくれました。応募作品は、小学生の部に101点、中学生の部に50点の合計151点。昨年度(70点)比倍増の多きを数えました。



力作ぞろい（入賞作品16点）

9月13日には、全作品を市庁舎大会議室に掲示、審査会が行われました。力作揃いを前に、審査の先生方(岩下教育長、小池川岸小学校長、伊藤小井川小学校長、小口企画政策部長、他)は、何回も相談されながら慎重に審査を進められ、小学生・中学生の部毎に、最優秀作品(各1点)、優秀作品(各2点)、入賞作品(小学生6点、中学生4点)の合わせて16点を選定されました。

また、10月17日には、入賞の児童・生徒の皆さんと各保護者の方々にも参列いただき、市庁舎大会議室で「表彰式」が行われました。今井市長から表彰状を、岩下教育長から講評と激励を受けた皆さんは、各自の作品を前に、晴れやかな明るい笑顔を見せてくれました。

なお、応募いただいた全作品は、11月21日～28日の１週間、イルフプラザ3階催事場に、また、入選作品16点は、12月7日開催の「男女共同参画おかや市民のつどい」会場入り口に展示(写真上)され、市民の皆さまに見ていただくことが出来ました。

「男女共同参画推進県民大会」に参加～いい勉強をしてきました

１１月９日、松本市Ｍウィング文化センターを会場に、県内各地より４８５名（岡谷市からは９名）が参加して、「長野県男女共同参画推進県民大会」が開催されました。

開会式での加藤さゆり副知事のあいさつに続いて、表彰式（知事表彰・県民会議表彰）が行われ、これまで男女共同参画社会づくりに功労のあった個人（７名）と、子育て支援に取り組んだ企業（２社）が表彰を受けました。年齢は若いものの継続的に努力している個人と、試行錯誤しながらも着実に「子育て支援」に成果を上げている企業が表彰を受けていました。

続いて、「ダイバーシティマネジメント――女性の活躍を企業の力にする」と題して、岩田喜美枝さん（公益財団法人２１世紀職業財団会長、㈱資生堂顧問）の講演の後、岩田さんをコーディネーターに「女性の活躍促進のために企業がやれること」をテーマにパネルディスカッションがもたれました。ここでは「働く場こそ男女共同参画で築き上げるものであること」を具体的に理解するとともに、その実現に向けては、「戦略をもって取組みを継続することが肝心である」ことがとくに強調されていました。

岩田喜美枝さんは、厚生労働省で雇用機会均等および児童・女性問題を担当された経験と、㈱資生堂の役員（のちに副社長）として、職場の風土改革に成功した実績を踏まえて、次のように講演されました。

１）女性が活躍することは「企業経営」に大きなメリットがあることは、㈱資生堂の実例から明白である。

２）企業が社員に対して早急に取組むべき課題は、次の３点である。

① 「仕事と家庭責任の両立」を支援すること（資生堂が１９９０年から実施した支援策を紹介）

② 全社員の働き方を見直す（ワーク・ライフ・バランス）こと（これで企業の競争力も強化される）

③ 女性の育成・登用のためのポジティブアクションを作り実行すること。

男女共同参画「おかや市民のつどい」開催される

男女共同参画推進・・市民の皆さんに、より一層の関心を寄せていただきたい

受付準備中の実行委員の皆さん

12月7日（土）、カノラホール（小ホール）を会場に「男女共同参画おかや市民のつどい」が開催されました。暦の上では大雪のこの日、幸い晴天に恵まれ、市民の皆さん約130人が来場されました。

（主催）おかや市民のつどい実行委員会、岡谷市、岡谷市教育委員会

（後援）岡谷市男女共同参画推進市民の会ほか３１団体

（内容）第１部（13:10～13:50）

中学生の皆さんによる男女共同参画についての意見発表

第2部（14:00～15:30）＝落語家・笑福亭松枝さん講演会

演 題「共同参画で四角じゃない丸い社会」

午後０時30分開場。入場券を手に、市民の皆さん、意見発表する生徒さんの祖父母・父母の皆さん、作文指導にあたられた中学校の先生方が、次々と訪れ、受付で「資料」と「男女共同参画しおり」（実行委員会の特製）を受け取っていました。

今井竜五市長より開会の挨拶を頂いたあと、第１部は、「市内４中学校の生徒さん（4人）による「意見発表」。各中学校より選ばれた４人（3年生男子3人、2年生女子1人）の生徒さんは、力強く、それぞれの「思いのたけ」を語ってくれました。どの生徒さんも、①「人間らしく生きるということ」、②「男性・女性のあるべき理想の姿」、③「男女共同参画社会に期待する」、④「男女の差別と区別について」など、思春期の重要なテーマと真剣に向き合い、「自分の意見」をまとめ上げ、発表してくれました。

４人の発表が終わる度に、会場には大きな拍手が湧き起こりました。また、今井市長からは、「素晴らしい意見を聞かせて頂きました。今日発表されたことを忘れずに深く胸に刻み込み、今後ともしっかり自己研鑽に努めて下さい。」と、励ましのエールが送られました。

休憩をはさんで、第２部は「落語家・笑福亭松枝さんの講演」。寄席の出囃子とともに高座に登場した松枝さん。人なつこい顔立ちと関西人特有の柔らかな語り口で、たちまち会場の雰囲気は一変。

まず「替り目（典型的な日本の夫婦を描いた古典落語）」を口演。男と女が日常生活の中で織りなす関係・あつれき等を、他人事ではなく、落語を聞いている「私たち自身の問題」として考えるよう誘導しておいてから、いわれもなく「女性の人権が抑圧的に扱われ、それが当然であるかのように見られてきた事実」を軽妙に語ってくれました。「男女共同参画とは、何も難しいことをやれと言っている訳ではない。日常の中での小さな発見や反省を感謝の気持ちに変え、お互いを思いやることから始めてみたら如何」と訴えながら、９０分間目一杯、笑いを届けてくれました。

「第３０回 日本女性会議 男女共同参画 2013 あなん」

10月11(金)～13(日)３日間にわたって、日本女性会議が阿南市スポーツ総合センター(徳島県阿南市)を会場に開催されました。日本女性会議 2013 あなん実行委員会、阿南市が主催、「いきいきわくわく 小さなまちから新たなるステージ！」をテーマに開かれました。

内容は多岐に渡り、①開閉会式・基調報告、②記念講演（講師：徳島県出身料理研究家浜内千波さん、演題：「男女が織り成す食育」）、③記念シンポジウム「テーマ日本女性会議の30年をふり返り、新たなステージへ」、④分科会(９テーマ)、⑤交流会、⑥(３日目)エクスカーション(旅行)などがもたれました。

充実感のある２日間でした
「日本女性会議 男女共同参画 2013あなん」に参加して

今年の女性会議は、徳島県最東端のまち阿南市で開催されました。阿南市は、徳島市に隣接する街で、町村合併により出来た人口７万人程の街。徳島からＪＲ特急で25分。阿南駅の周辺には収穫を終えた田園風景が広がっていました。

岡谷からは電車等を乗り継いで９時間、海外へ出掛けるほどの距離です。それでも行ってみたいと思ったのは、全国をまわり時宜を得た学びができる女性会議に魅力があるからです。

今回のテーマは「いきいきわくわく小さなまちから新たなるステージ！」。特に充実していたのは分科会で、「介護と地域医療」「防災」「子育て」「まちおこし」「セカンドライフ(高齢者)」「食育」「ワーク・ライフ・バランス」「農村・漁村」「DV」と多様で、それぞれに事例発表やパネルディスカッションが行われました。

私が参加したのは「まちおこし」で、(有)環境とまちづくり代表で徳島大学客員教授のコーディネートで、特定非営利団体活動法人グリーンバレー理事長や自然体験学習研究会代表、阿南スケートボード協会会長、青年会会長、鯉祭り実行委員長などいずれも30～40代の５人がパネリストでした。テーマも「男と女、つないで灯す小さな光、拡げていくのも女と男」。とかく、昔ながらの団体の既成の活動が多くなりがちな地域で、若い人たちのアイディアと活動のエネルギーが生かせることが、多様化グローバル化しているこれからの社会づくりに向けて重要であることを改めて感じました。

内閣府男女共同参画局の「基調報告」や、料理研究家の「記念講演」もさることながら、街をあげて取り組んだ交流会の設定や、阿波踊りのアトラクションなど、四国の皆さんの「おもてなしの心」を存分に味わうことができ、充実感のある２日間でした。

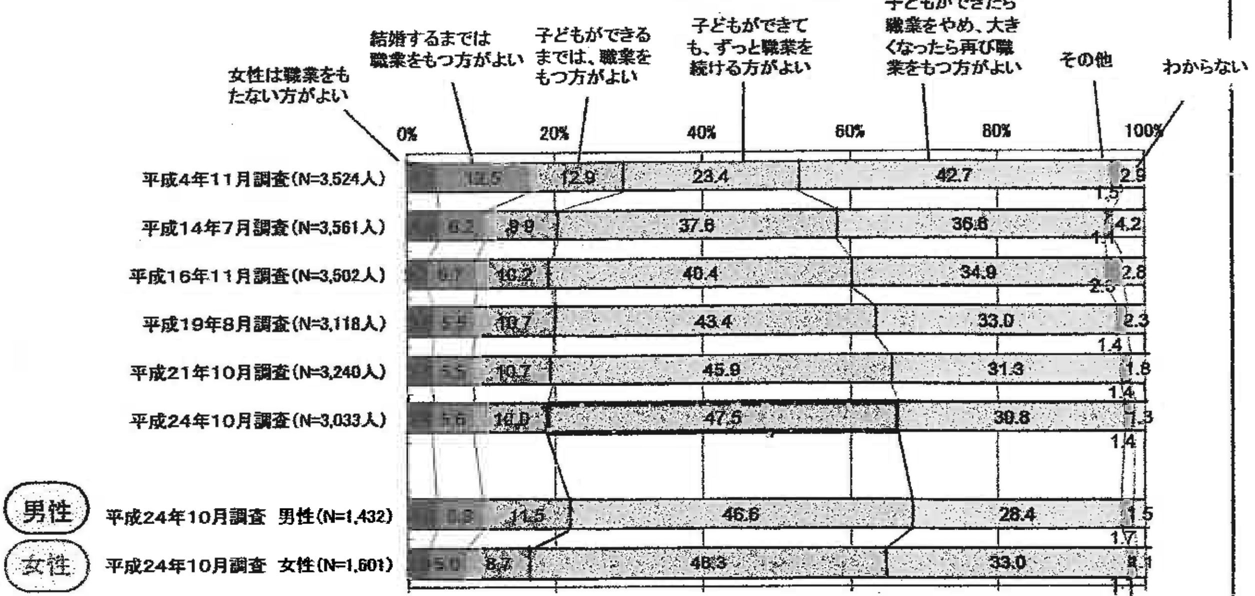
（ 小池　喜代 ）

のぞき見 豆知識 ― 男性の「性別役割分担意識調査」(内閣府)の結果

内閣府が平成２４年に行った「男女共同参画社会に関する世論調査」によると、

女性の就業を肯定的に捉える男性の意識は「着実に増加してきている」

→「子どもが出来てもずっと職業を続ける方がよい」と回答する割合が５割近くになっている。

→ これは、岡谷市が今年夏に実施した「働く場における男女の意識調査」でも確認されています。

女性が職業をもつことについて男性の考え方